

AFTERNOON TEA

陶芸と生理学

朝日大学歯学部口腔機能修復学講座口腔生理学分野
安尾 敏明

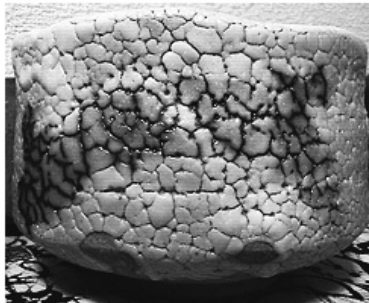
大阪大学の乾賢先生からバトンを受け取りました朝日大学の安尾敏明と申します。乾先生には非常勤講師として学生実習に来ていただいております。大変助けられています。

私は、現在、歯学部二年生の生理学・口腔生理学の講義や実習に加え、大学附属の歯科衛生士専門学校的一年生(二クラス)と三年生(二クラス)の生理学・口腔生理学講義を担当させていただいております。本年度から、看護学科ができ、その講義の一部も担当させていただく予定です。また、朝日大学では、短期海外研修があり、歯学部五年生を夏休み期間中に二週間アラバマ大学へ引率し、三月に一週間その受け入れをするという仕事

も行っております。このように、研究以外の仕事が多いのですが、裕哲崇教授のご指導のもと、味覚の研究を行わせていただいております。

大学院時代は、九州大学歯学府にて、二ノ宮裕三教授のご指導のもと、主に味細胞の味応答解析を中心に行わせていただき、現在は味神経(鼓索神経)応答解析や行動学的解析を中心に行って、微量栄養素の摂取機構に関する研究を行わせていただいております。

私の趣味は陶芸で、中学時代より続けており、主に茶道具を造っております。茶道具といえば、織田信長が“名物狩り”をしたのは有名な話ですが、その時代、唐物(中国からの伝来品)が重要



視されましたが、中でも、茶入が大変珍重されておりまして、『茶入一つが一國に値する』と言われてたくらいだそうです。私は、どういうわけか、学生時代にその茶入に魅了され、勉学の傍ら、その作陶に励んでおりました。また、色々と窯元を巡っているうちに、様々な陶芸家の先生とお知り合いになることができました。特に、陶磁学者で宋時代の定窯白磁の窯跡を発見したことで有名な小山富士夫先生の窯等で弟子をさせていただいたことはとても良い思い出です。

茶道具の中には、国宝のものもあります。その中でも特に有名なのが、ご存知の方もおられると存じますが、世界に三碗しかなく、虹色に輝くことで有名な『曜変天目茶碗』です。この茶碗は、現在、東京の静嘉堂文庫美術館、大阪の藤田美術館（今年公開）及び京都の大徳寺龍光院にありますが、本当はもう一碗最高のものが存在し、信長

が所持していたそうです。しかし、本能寺の変で消失したと言われており、誠に残念な話です。この茶碗には、独特の美しさがありますので、見られたことのない皆様は是非一度ご覧になってください。

私はこのような趣味を持っておりまして、休みの日はよく美術館に行くのですが、行くたびに古の職人の技を垣間みて、その精巧さに驚かされております。生理学会においても、諸先生方の発表を拝聴して、研究内容はもちろんのこと、実験の精巧さにも大変驚かされております。この生理学分野の研究は、実験の技術力も重要なのだと感じており、自分ももっと頑張らないといけないなと痛感しております。こんなまだまだ未熟者の私ではありますが、皆様、生理学会で私を見かけられましたら、是非お声をおかけ下さい。



医療通訳セミナー

岐阜大学大学院医学系研究科神経統御学講座生理学
分野

安部 力

愛知医科大学医学部生理学講座の佐藤麻紀さんからバトンを受け取りました。安部力と申します。現在は、岐阜大学大学院医学系研究科を休職し、日本学術振興会海外特別研究員として、バージニア大学の Guyenet 教授の教室でオプトジェネティクスを用いた中枢での圧受容器反射と化学受容器反射の相互作用について研究しています。今回は、研究とは全く関係のない話なのですが、私が岐阜大学で行ってきた「医療通訳セミナー」について少しお話ししたいと思います。

医療通訳セミナーとは、岐阜県国際交流センターと岐阜大学が連携して、ボランティア通訳者を養成するプログラムです。岐阜県は外国人労働者が多く、特にブラジル人の割合が非常に多い県です（都道府県別で第5位）。日本語や英語を話す

ことができない外国人が医療機関を受診する際、医者と患者の橋渡しである通訳者は非常に重要な存在となっています。私が高校1年生の時に1年間ブラジルに留学していたこともあり、約3年前に岐阜大学寄生虫学講座の元教授である高橋雄三先生から引き継ぎました。医療通訳セミナーの活動は主に2つあります。1つめは医療通訳の練習および試験です。シナリオを作成し、医者役と患者役の間できちんと通訳ができるかどうかを評価します。2つめは医療機関で実際に使用する機器等の説明です。岐阜大学医学教育開発センター（MEDC）が所持している学生指導用の医療機器を用いて、医学部2年生～4年生の有志学生が通訳者に説明します。また、実際に触ってもらい、医療機関で使用する医療機器を身近に感じてもら



写真1. 筆者（左から2番目）と医学部学生たち



写真2. 医学部学生が血圧の測定について説明しているところ

います。このような活動を、1年間に2～3回程度行ってきました。

医療通訳セミナーは、通訳者だけではなく学生にとってもいい機会となっています。たとえば血圧や心電図を説明する際、最初に測定の目的や方法、機器のメカニズムについて説明します。その後、人形模型や通訳者の血圧や心電図を測定します。本番前の練習の時に、低学年の学生は座学で学んだ知識を、高学年はポリクリで学んできたことを、皆で共有しながら助け合います。講義の間にはしっかりと練習を行うので、説明や機器の扱いは非常に上手です。毎回、セミナーに参加した通訳者から好評を得ています。

医療通訳セミナーに参加してくれる学生のほとんどは、岐阜大学生理学教室（森田啓之教授）のMD-PhDコースの学生や基礎配属の学生です。普段、講義や部活、バイトがない時間に一生懸命実験をしている姿を見ているので、医療通訳の説明も安心して任せることができます。医療通訳以外のイベントでも声をかけることがあるのですが、いつも積極的に参加してくれるので非常に感謝しています。あまり偉そうなことを言える立場ではないのですが、彼らには講義や研究だけではなく、いろんな経験を積んで成長してってもらいたいと素直に思います。2年後帰国した時に、成長した彼らと会えるのを楽しみにしています。